

教育における職業的イレリバンス の十大要因 ―戦後教育の問題―

田中萬年

参考文献『教育と学校をめぐる三大誤解』、学文社
『働くための学習』、学文社

1. 言葉の誤解

- (1-1)「教育」は王の楽しみ
- (1-2)文部省は学文(学問)の省
- (1-3)「学校」は学問所

2. 戦後「民主化」観の自家撞着

- (2-1)「教育勅語」温存下の模索
- (2-2)徒弟制度への無吟味的排除
- (2-3)「勤労動員」への反感

3. マッカーサー草案の日本的解釈

- (3-1)“Education”は「教育」ではない
- (3-2)学問と職業選択の分離

4. 「日本国憲法」の問題

- (4-1)「勤労権」と「教育権」との逆転
- (4-2)「教育を受ける権利」の日本的精神
- (4-3)「普通教育」の信奉

5. 「教育基本法」の問題

- (5-1)GHQの提言無視
- (5-2)勤労尊重の教育観

6. 経済成長による思考停止

- (6-1)科学偏重主義
- (6-2)「学力」至上主義
- (6-3)「職業陶冶」論の無関心

7. 人生の単純化・標準化

- (7-1)機会均等観の狭歪性
- (7-2)「単線型教育制度」の信奉
- (7-3)進路指導の未対策

8. 教育行政の強化拡大策

- (8-1)国際規程の無視
- (8-2)カリキュラム研究の不可能化
- (8-3)学校経営への適合化

9. 企業人事観の自己主義

- (9-1)無専門能力の要望
- (9-2)ホワイトカラーの優遇

10. 戦後日本人の事大主義

- (10-1)大企業志向
- (10-2)文化志向